

ウエルハーネスだより



188号

理事長からの言葉

寒い日が続いています。久しぶりに冬らしい冬ですね。大雪の便りも聞こえてきますが、オミクロン株の猛威の中では、なかなかスキーやスノボに行くということも出来ないかなと思います。日々の感染者、うなぎのぼりで増えていますね。昨年の秋には第6波が来るとは思えなかったのですが、こうなってみると専門家の予測というのは正しいのだと改めて実感しました。いつ感染してもおかしくない状況ですね。

そんな中で少しでも希望が見えるようなお話と思い、次の記事を紹介したいと思います。『週刊新潮』の2022年1月13日号に載っていた「オミクロン株はコロナ終息のサインか 弱毒化の兆候も」です。書かれたのは昨年末ですし、週刊誌の記事ですので、どこまで信ぴょう性があるかという点は差し引いて考えた方がよいのですが。

オミクロン株の感染力がなぜ高いのかを東京農工大感染症未来疫学感染センター長の水谷哲也教授が解説しています。

「オミクロン株は、ウイルスがヒトの細胞に侵入する際に足がかりになるスパイクタンパク質の変異が、約30か所もあります。従来株の数か所から10か所程度に比べて格段に多く、この変異によってウイルスがヒトの細胞のレセプター（受容体）と統合しやすくなったと考えられています。」怖そうな話ですが、水谷教授は続けてこう説きます。

「感染力が高まった分、体内に侵入するウイルス量も増え、重症化リスクも増えるはずなのですが、オミクロン株は不思議なことに、リスクはデルタ株より低いとみられます。考えられる理由の一つが、約30か所と変異が起こりすぎたため、ウイルスが持つ特性が打ち消されてしまった可能性です。」

埼玉医大の松井正則准教授はこう説明します。

「100年前のスペイン風邪は第3波で収まりました。終息理由ははっきりとは解明されていませんが、諸説あり、一つは集団免疫ができたということ。他には病原性が下がったということ。私はその両方ではないかと考えます。私の推測の域を出ませんが、オミクロン株の登場が、新型コロナウイルス感染症終息のサインの可能性はあると思う。終息途中の段階の一つではないか、というのが私の考え

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL: 048-782-0575
FAX: 048-782-0590
令和4年1月25日発行

です。」

浜松医療センター感染症管理特別顧問の矢野邦夫医師がさらに解説します。「ウイルスが進化の過程で、感染力が強く弱毒化した変異株を作らざるを得ないのは、自然の流れです。いま風邪のコロナウイルスが4種類ありますが、それらも新型コロナ同様、かつて大流行し、鼻水やのどの痛みなど、風邪の症状で終わるようになったと思われます。この新型コロナも、病原性が落ちて重症度が減り、近いうちに5番目の風邪のウイルスになるとと思われます。私はオミクロン株、もしくは次の変異株でさらに病原性が低くなったとき、そうなると考えています。」

矢野先生は今後の見通しを次のように語ります。

「7、8月までには、新型コロナは外来で対処できる風邪になっていると、私は予想しています。そのころまでには、国民のほとんどが3回目のワクチン接種を終えて、抗体が十分にでき、コロナは流行しても、ただの風邪でしかなくなっていると思います。」

今のオミクロン株の猛威がウイルス進化の過程であることを祈って、一刻でも早いコロナ禍の終息を願うばかりです。それまでは皆さん、感染症対策を頑張ってください。

12～1月の行事

三が日は、おせちやお雑煮、お赤飯・かにちらし寿司など正月の料理を召し上がって頂きました。また、1/23(日)には、吉野家特製牛丼を召し上がって頂きました。

特養では、新年会をユニット毎に行いました。職員の手作り餅つき台で、杵を力強く突いて、餅つきの雰囲気味わって頂いたり、おみくじを引いたり、工作した絵馬に願いを書きました。また、甘味を召し上がるユニットもありました。

デイでは、貼り絵の獅子舞を工作したり、新年会に羽子板塗り絵やカルタ取りを行いました。また、節分の巾着袋作りなども行いました。

1～2月の予定

2/3(木)は、節分の昼食として「ちらし寿司・つみれ汁・イワシの蒲焼き・豆サラダ・豆乳プリン」を予定しています。2/6(日)は、昼食にたいめんけんのハヤシライス、夕食は鰻ご飯を召し上がって頂きます。

特養では、節分のレクをユニット毎に計画しています。また、今月も多くの利用者様の誕生日会をお祝いさせていただきます。

デイでは、節分ゲームやサイコロゲームなどを行う予定です。また、2/11・12におやつ作りレクを計画しています。





デイ
獅子舞作り



お正月料理



特養
新年会



デイ かるた大会



デイ 巾着袋作り

